



No.37

2025年3月14日 発行

JR東労組新幹線協議会

発行責任者 近藤 隆行

幹本申12号 東北新幹線で発生した列車分離の原因究明と 対策の実施を求める緊急申し入れを提出！！

1. 2025年3月6日に発生した3021B列車Z+H編成の列車分離について、原因と対策を明らかにすること。
2. これらの事象を踏まえた職場の声を把握し、課題を明らかにすると共に職場の不安等を解消すること。

2025年3月6日11時30分頃、東北新幹線 上野～大宮間において3021B列車(Z7+H3編成)が列車分離し緊急停止するという極めて重大な事象が発生しました。今回の列車分離に対して運輸安全委員会は、鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる「重大インシデント」とであると認定しました。

列車分離は昨年9月19日にも古川～仙台間で発生しています。わずか半年の間に立て続けに発生したことは極めて異常であり、新幹線の安全が危機的状況に陥っています。昨年9月の列車分離発生後、JR東労組は原因究明と再発防止に向けての対策の実施を求める緊急申し入れを行い団体交渉の場で議論してきました。会社は「あってはならない事象であった」と認識を述べる一方で、私たちが「原因が判明していない中での併合運転継続は問題がある」と主張したことに対して「車両等の状況から他編成で同様の事象が発生する可能性は低い」と、併合運転継続の判断に問題はなかったとの回答を繰り返しました。この回答を受け、JR東労組は発生している事象に対して「現場やお客さまと会社との認識に大きな乖離がある」と指摘してきました。

そして会社は原因を調査中にも関わらず、3月11日に電氣的な異常が発生しても空気管開閉器が動作しないように固定する器具を取り付けて併合運転を開始することをプレス発表しました。このことに職場では「原因は分かっているのに大丈夫なのか」「また原因が判明していないのに走らせるのか」と、前回の交渉で指摘したにも関わらず、併合運転を開始することに驚きと怒りの声が上がっています。また「状況が社員に説明されていないのに何故プレスが先なのか」「社員に説明してからプレス発表するべきでないのか」と「世間体優先ではないか」「世間体しか考えていない」との怒りの声も上がっています。

2023年12月に新幹線統括本部長名で「新幹線を止めない、遅らせない」「利益の最大化に向けて構造改革に取り組むと共に増収・コストダウンを続け、『稼ぐ』ことにこだわる」との掲示が出されて以降、新幹線は重大な事故・事象が相次いでいます。これだけの相次ぐ事故・事象は単なる偶然とは思えず、原因究明から背後要因を確定させることが必要です。

現在もお客さまへの謝罪に奔走し、大混乱の中で臨時ダイヤに対応しながら奮闘する組合員と社員の声と新幹線の安全が危機的状況であることを労使で受け止め、責任追及や運行優先の体質から原因究明への安全文化を確立し安全第一の企業となるため、緊急で申し入れを行いました。

私たちの手で安全を創りだそう！！